

# 第1問

# 対話文イラスト選択《易》 出題数：6問

- [出題形式] ごく身近な出来事を題材にした A → B (→ A → B) の対話を聞き、質問の答えを4つの選択肢 (イラスト・数字・記号・英語など) の中から1つ選ぶ。
- [語数] 約30語
- [レベル] 公立高校入試～英検3級レベル
- [解答時間] 1回目：7秒 2回目：6秒
- [読み上げ速度] 176語/分 (🔊)

**DATA**

**質問文・イラストを全てチェック** (日本語の指示文が流れている間に)

質問文・選択肢に目を通し→登場人物・場面・品目などの情報

→ **聞き取りのポイントを予測**

<自信がある場合は…>

**1回目の放送 キーワードの把握** → 次の問題のイラスト確認へ

↓ [答えの絞り込み]

**★キーワードは3種類 事前把握を!**

- ① <数> に関する語句
- ② <場所・位置関係> を示す語句
- ③ <会話の「中心的話題」> に関する語句

**2回目の放送 会話全体の流れを再確認**

↓ 周辺情報のチェック→「足し算」へ

[答えの確認]

**point!**

①問題用紙の質問文とイラスト(数字・文字)に先に目を通しておく(日本語の指示文が流れている間に)。「先取り」で進めることがリスニング試験全般の基本。→「何が問われるのか?」を予測して聞き取りのポイントを予測=仕込みをして「待ち受け」態勢に=聞き取るべき中心の語句が何であるか(問いの対象は、時間、天候、値段、国名、料理、形状なのか)を明確に意識する。《基本》

②質問文に沿った形で対話に耳を傾ける。→数字表現(金額・時間・値段・%・年号・日付・分数・小数・増減など)が出てきたらメモを取る。聞こえた「数」や「情報」をそのまま解答にする傾向が強く差がつきやすい。選択肢に数字があるときは、計算があることを予想せよ。やや複雑な数値計算を伴う場合は《難》。

(注)英文を聞くときに同時に計算はしないで、メモだけ取っておき、後で解答時間にする。

③1回目は答えを絞り込み、2回目で確認する。1回目で絶対に正解の確信があるときには、次の問題の質問とイラストへ移る。

④「キーワード」1発で即解答となる問題と、「キーワード+周辺情報」の足し算作業から解答を得る問題に大別される。

⑤「ひねり」が加えられた問題(ニセ情報あり)には注意!聞こえた単語が答えとは限らない。対話の最後まで訂正が入らないかどうか集中して聞け!「つなぎ語」に注意!

⑥地図問題では放送内容にしたがって、現在位置を鉛筆で線で引いてたどっていくのが鉄則。右(right)左(left)東(east)西(west)なども即座に理解できるように。

⑦-teen(13から19まで)と-tyは紛らわしいので区別して聞け!(thirteen vs. thirty fifteen vs. fifty)

⑧普段目にする日常語を英語で言えるようにしておく。

**基本問題 まずここで満点を取れるようになることを目指せ!**

## 第2問

## 対話文応答完成 << 難 >> 出題数：7問

★平均点低し！比較的差がつく！（理由：速い・分かりやすいハデなキーワードのヒント少ない）

- [出題形式] 日常的な出来事を題材にした A → B (→ A) の対話を聞いて、対話に続くセリフを4つの選択肢から1つ選ぶ。
- [語数] 約30語 ● [レベル] 英検3級～英検準2級レベル
- [解答時間] 1回目：12秒 2回目：10秒
- [読み上げ速度] 182語/分 (7)

DATA

### 選択肢をおおまかにチェック

(日本語の指示文が流れている間に)

※聞こえてくる内容が予想でき楽になる  
選択肢は全く内容の異なるものが4つ

### 1回目の放送 最後のセリフ

可能なら1つ前のセリフも

<細部の表現> + <対話全体の構図>  
<最後のセリフ+1つ前>は要チェック

### 2回目の放送 全体の流れを再確認 [最後の1つ前を意識]

#### ●場面状況の把握

- (1) 対話が「YES-No 疑問文」に続く応答
- (2) 対話が「5W1H疑問文」に続く応答
- (3) 対話が「平叙文」に続く応答

point!

## 「最後」→「その一つ前」を意識せよ!

キーワードより「流れ」をつかむのがポイント!

- ①事前に（日本語の指示文が流れている間）選択肢に目を通しておく。→選択肢に共通の**カテゴリー**や**キーワード**に注目→聞き取りのポイントを予測（対話の内容、話題の焦点）
- ②最後に聞こえてくる発言内容を絶対<sup>に</sup>聞き逃さない！Q & Aの中心となる**動詞句**に着目する。(1)平叙文か、(2)Yes-No 疑問文か、(3)5W1H疑問文(Yes/No では答えられない!)か、特に冒頭部分(=場面の設定)をしっかりと聞き取る。場合によっては消去法的に処理。最後の1つ前の発言も意識。「自然な応答であること」が正解の最大の根拠。最後に読まれる文に続けて、選んだ選択肢の応答文を読んでみて、自然につながるかどうか**検算**せよ。
- ③対話の状況、人間関係を素早くつかむ(情報のキャッチボール)。代名詞の指す対象を素早く把握。
- ④ Why not?, How about ~?など会話問題に頻出の**口語表現**を押さえておく。
- ⑤パターンで解ける問題はまれ。  
[例] Why ~? に対し、必ずしも Because ~ で始めるとは限らない。  
Where ~? に対し、場所が含まれるから正解とはならない。
- ⑥対話の方向性を決める表現(特に**逆接**)に注意。

## 第3問A

## 対話状況把握

出題数：3問

- [出題形式] 身近な出来事を題材にした A → B → A → B (→ A → B) の対話を聞いて、対話が進行する場面を推理したり、対話の当事者の次の行動を特定するなど、質問の答えを4つの選択肢から1つ選ぶ。
- [語数] 約40～50語
- [レベル] 英検準2級レベル
- [解答時間] 1回目：12秒 2回目：10秒
- [読み上げ速度] 161語/分 (🔊)

**DATA**

### 質問文と選択肢のチェック

(日本語の指示文が流れている間に)

※何を聞けばいいの  
かを把握

キーワードをキャッチ→構図を再確認  
(第1問 + 第2問の発展バージョン)

### 1回目の放送 キーワードと最後のセリフを把握

話題・登場人物の相関関係 (5W1H) の把握に努めよ

### 2回目の放送 全体の流れを再確認

細部の確認→正解へ

**point!**

- ①問題用紙の質問文と選択肢 (5語～10語) に先に目を通しておき、聞き取りのポイントを絞り込んでおく。場所や人物を表す語句、行動を表す語句、数値表現 (曜日、時間)、理由などに注意→話者や話題を推測
- ②できるだけ早く場面状況を把握する。「場所」と「行動予測」を尋ねる問題が圧倒的に多い。
- ③質問文は5W1Hなので、その部分にあらかじめ下線を引いておくとうい。質問文の主語が人の場合、その人の発言に特に注意。
- ④選択肢中の英語が聞こえたからといって、すぐに解答を選ばずに、場面状況を正確に把握し、最後まで集中して聞け。早とちりは禁物!
- ⑤第1問と同様に「キーワード」のキャッチ、これに加えて第2問と同様に「最後のセリフ」がカギとなる。つまり第1問+第2問の発展バージョン問題である。  
キーワードのキャッチ → 第1問と同じ  
最後のセリフのキャッチ → 第2問と同じ
- ⑥固有名詞が出てきても慌てない。
- ⑦状況や登場人物を視覚的にイメージしながら聞けるようにするのがコツ。話の内容が途中で変化する (話題転換) こともあるので、早合点せず最後まで集中力を切らずにしっかりと聞き取る姿勢を磨くこと。
- ⑧会話特有の応答表現を押さえておく。

## 第1問と第2問の対策が全て!

## 第3問B

# 長文対話イラスト

出題数：3問

- [出題形式] A — B の長めのやりとりを聞いて、表の3箇所の空所を6つの選択肢から選んで埋める。
- [語数] 約150語
- [レベル] 英検準2級レベル
- [解答時間] 1回目：13秒 2回目：11秒
- [読み上げ速度] 166語/分(🔊)

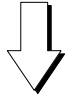
**DATA**

◆会話の話題 ①タイムテーブル ②空間把握 ③データ比較

### 図表・イラストのチェック

(日本語の指示文が流れている間に)

- ※場面状況は日本語で提示される<必ず読むこと!>
- ※どのような情報をつかむべきか
- 図表のどこに何のメモを書くべきか?

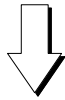


### 1回目の放送 キーワードの把握

【ココが難しい】

あとさき・位置関係・差を表す  
キーワードが連続して出現

- ・3問同時進行のため話が混乱しやすい(対話の流れは表の空所順ではない)。
- ・足し算の問題があるため、どこで修正がかかるか気を抜けない。
- ・ヒントが前後に分散していて解きにくい。



2回目の放送

### 時間関係・位置関係を確認

日時や曜日、場所や人物、行動、  
数値表現、理由などに注意

▼複数の情報の中から必要なものを選び、それらを文脈から類推して並べかえる「**情報処理能力**」が問われている。

**point !**

- ①図表・イラストをじっくり観察し、会話の内容や流れを推測しておく。そこから得られる情報を頭に入れて、読み上げられる英文に集中する。会話の進行に従って表を追い解答(必ずしも6、7、8の順に決まるとは限らない)。前の情報に訂正が入ることを意識。長いのでリスニングスタミナが必要。
- ②「時間の推移」(時間軸)を問う問題では、必ずしも対話が時系列に展開しない場合もあるので注意を要する。出来事の互いの**あとさきの関係**を正しく聞き取る。似たような情報が連続し(ニセ情報を含む)、聞いた後の処理が必要。
- ③「位置関係」(空間軸)を問う問題では、特に場所を表す**前置詞**の聞き取りがカギを握る。**モノの互いの位置関係**を正しく聞き取る。
- ④問題冊子の選択肢の図表に、聞き取った情報を書き込み、素早く**メモやチェック**(線・印)を書き入れていく。
- ⑤本文が流される間は、**内容把握**と**メモ**を取ることに集中し、逆算を含む「**計算**」は後に回す。
- ⑥聞き取った情報を**再整理**する作業。
- ⑦英検対策書が有効。

**時間軸か空間軸かが大きなヒントに!**

## 第4問A

## 短文内容把握《難》

出題数：3問

- [出題形式] 短めのナレーションを聞いて、質問の答えを4つの選択肢から1つ選ぶ。
- [語数] 約90～100語
- [レベル] 英検2級レベル
- [解答時間] 1回目：16秒 2回目：10秒
- [読み上げ速度] 135語/分(🎧)

**DATA**

### 質問文と選択肢のチェック

→ 部分把握型か全体把握型かを予測

- (1) 英文の内容に合った選択肢を選ぶ問題
- (2) 設問文の条件に応じて選択肢を選ぶ問題
- (3) 英文の文脈から、場面状況を類推する問題

→ キーワードをキャッチすれば答えられる「部分把握型」と、文章全体の要約的要素の強い「全体把握型」《難》の2種類

**注意** 固有名詞や特殊な語彙・表現を登場させ、意図的にあわせてさせようとする問題がある（受験者の混乱を狙う）。→ 固有名詞が出てあわてない。

1回目の放送

「キーワード」の把握〔部分〕  
「最初」と「最後」の内容を把握〔全体〕

答えを探しながら効率的に聞け！



2回目の放送

全体の流れの再確認  
真ん中を意識(細部)

○聞こえた音に引きずられて、誤答を誘発させる落とし穴があるのでくれぐれも注意すべし！

**point!**

① あらかじめ質問文<疑問詞+疑問文の語順>に目を通し、質問の主旨に沿って聞く。大切な「たくさん」の中から大切な「1つ」を追いかける！印刷されている情報（設問文と選択肢）を素早く把握して、聞き取りのポイントを絞れ！

② 選択肢が5語から10語と短いので、事前にさっとチェックしておき、聞き取りのポイント〔共通する話題〕を絞り込んでおく。一定量の情報が一気に流れてくるのを待ち構える心構えで。

③ 大まかな場面や状況を把握する問題なので、細部の聞き取りにとらわれすぎて（余計な情報が含まれる）全体を見失うことがないように。気楽に！選択肢に○×△をつけるだけでもよい。内容は(1)説明、(2)観光案内、(3)アナウンス に大別される。

④ 「部分把握型」（キーワードに注目）と「展開把握型」（最初と最後に集中）の2タイプがある。当然後者が《難》。

⑤ [注意] 固有名詞が出てきても慌てない。最後に「どんでん返し」があるワナ問題にも注意。「カタカナ語」にも注意。

⑥ この問題と読解は表裏一体で、「読めないものは聞こえない」。「つなぎ語」と「指示語」は文脈把握の道しるべ。

⑦ 速読と情報整理の力を磨く。語彙力も必要。

◆ 大切な1つの情報を大切にでない沢山の中から拾う！

### <疑問文の冒頭のパターンに注意!>

**重要**

- ◆ 「数」を尋ねる・・・How many ~?
- ◆ 「量」や「値段」を尋ねる・・・How much ~?
- ◆ 「期間」を尋ねる・・・How long ~?
- ◆ 「あとどのくらいの期間」を尋ねる・・・How soon ~?
- ◆ 「距離」を尋ねる・・・How far ~?
- ◆ 「どのくらいかかる」を尋ねる・・・

[時間] How long does it take ~?

[お金] How much does it cost ~?



## 第4問B

## 講義問題《最も難》

出題数：3問

★平均点低し！差がつく！

(理由：長い、語彙レベルが高い)

- [出題形式] 長めのナレーションを聞いて、質問の答えを4つの選択肢から1つ選ぶ。＝ 耳で試される読解問題
- [語数] 約180語
- [レベル] 英検2級レベル
- [解答時間] 1回目：45秒 2回目：30秒
- [読み上げ速度] 128語/分(🎧)

**DATA**

### 質問文の把握

(日本語の指示文が流れている間に)

「何を聞き取ればよいか？」をあらかじめ把握

### 1回目の放送 「流れ」よりも「部分」の聞き取り

- 冒頭部分 → 問23
  - 真ん中部分 → 問24
  - 最終部分 → 問25
- } 1つずつ順番に

### 2回目の放送 聞き漏らしのチェック

**point!**

- ①問題冊子に質問文と選択肢が印刷されているが、事前に目を通す時間はほとんどない点に注意。日本語の説明の時間に何とか質問文だけには目を通す。→文章の話題(話の内容や展開)を推測→「部分把握型」問題の聞き取りを3題つなげた形式(団子三兄弟)
- ②内容が論理的に構成されている(「主題」→「展開」→「結論」＝長文読解の「内容一致問題」)がそのままリスニングになったもので1パラグラフに1つの話題)ので、いかにメモを取れるかがポイントとなる。その際、全てを完璧に聞き取ろうとするのではなく、多少の聞き落としがあっても、それが質問と関係のない枝葉末節の情報なら無視してよい。スクリプトが長いので英文のボリュームにうろたえるな！→必要な情報とそうでない情報の取舍選択→リスニングスタミナの必要性
- ③選択肢の英文は1回目と2回目の読み上げの間にさっと目を通す。
- ④1回で全部聞こうと思わず、1回目はむしろ全体の要旨を把握することに専念し、分かる範囲で選択肢を絞り込んでおく。2回目では、1回目で聞き取れなかったあいまいな部分を集中して必要な情報をゲット。正攻法・消去法を併用せよ。朗読を聞きながら選択肢を読んだり、計算したりは絶対にしない！
- ⑤選択肢の比較的長い英文を速く読み、正確に理解できる力をつけておく。単語力・文法力・耳の体力を増強(→音読・シャドーイング・ディクテーション練習が効果的)。英文と選択肢で内容を言い換えている表現(正解)に注目。
- ⑥解答情報は問23から1問ずつ順番に現れる！1回の朗読で全てを解こうと思わずに、1回目に2題、2回目に1題を解く心構えで。
- ⑦もうここら辺に来ると集中力が切れてくる頃。全体のペース配分を考え、試験全体で集中力を持続するトレーニングが必要。

筆者が結論を導くためのアプローチ

①帰納法(具体例→一般論)

②演繹法(一般論→具体例)



- 単語の意味・発音をチェック→音読→音声を聞く

**日頃の英文速読練習が効果的**

